若手教員支援サイト

学級担任のまなざし　04

Okayama Prefectural Education Center

R2.6.11 [Thu]

「縁の下に光を当てる」

異学年交流活動を終えた男子が、「あー、疲れた。」と言いながら教室に戻ってきました。「先生、リーダーって大変じゃなあ。」とぽつりと言います。6年生担任には、児童の気持ちがよく分かりました。年度始めは、入学式の準備や片付けに始まり、児童会活動の準備や進行、委員会活動や通学班での下級生の世話など、高学年児童にとって特に忙しい毎日です。担任は、児童の気持ちを聞きながらも、高学年としての活躍を期待して、教室の全員に思いを伝えました。

「どうして自分たちばかりが…」と感じる人もいるかもしれません。行事が盛大に行われる時には、その前後に地味な仕事があるものです。下級生がスムーズに活動できるように準備をしたり片付けをしたりしても、その姿は下級生には見えないことが多いので、そのような気持ちになるのもよく分かります。

でも、思い出してほしいのです、みなさんが1年生だった頃を。みなさんが安全に登校できたのはなぜでしょう。うさぎが元気だったり、石けん液がいつも満タンだったのはなぜでしょう。知らないところで、当時の上級生の支えがあったはずです。目立たないけど、陰でしっかり仕事をしてくれていたのです。みなさんは、そうしてこの学校で大きくなったのです。

次はみなさんの番です。仕事をしても誰の目にもとまらず、ほめてくれないかもしれません。しかし、少なくともこの教室では、お互いのがんばりを認め合いましょう。

高学年の児童が学校のためにがんばっている姿は、他学年にはなかなか見えにくいことがあります。担任として児童の姿をしっかり見つめ、気持ちを受け止め、「がんばっているね、ありがとう。」と、思いを言葉で伝えるよう心がけているとのことでした。